

令和6年度生野区における外国人住民との共生社会実現に向けた 調査・施策検討事業

1 調査目的

生野区では従前から国籍や民族等の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、一人ひとりが地域社会の一員として活躍できる「多文化共生のまち」の実現をめざし、さまざまな事業に取り組む中、急激な外国人住民の増加に伴い、多様化・複雑化する外国人住民の課題・支援ニーズを把握し、ともに参画できる地域づくり実現のための支援策や協働による地域コミュニティの創出にむけた政策提言を受け必要な施策を実現する。

2 調査方法

量的調査と質的調査を実施

【量的調査】 アンケート調査

- <調査方法> 調査目的とアンケート回答フォーム（日本語に総ルビ 10言語対応）のURL等を記載した依頼文を郵送
（特別永住者は年齢構成を勘案し紙の調査票と返送用封筒を送付）
- <対 象> 区内在住18歳以上の外国籍住民 7,000人
（参考：令和6年9月末現在生野区人口126,629人、外国籍住民人口29,202人）
- <調査期間> 令和6年10月1日～10月15日
- <発送件数> 7,000件
- <回答件数> 771件 返戻数：59件 送付到達数：6,941件 有効回答率：11.1%

【質的調査】 インタビュー調査

- <調査方法> ① 住民座談会
② 支援団体・学校・事業所へのインタビュー
- <対 象> ① アンケート協力者及び「IKUNO・多文化ふらっと」のホームページ等
応募のあった外国人住民からランダムに抽出 19名
② 地域、企業、医療・福祉、保育・教育等の各分野からこれまでの区内での活動実績等を踏まえ選定 21名
- <調査期間> ① 令和6年11月23日
② 令和6年9月24日～11月29日（のべ15日）

3 調査結果に基づく施策提言

量的調査と質的調査の分析結果を相互補完的に融合し、施策提言

分析では「全体」「特別永住者」「特別永住者以外」における生活課題などの特徴を把握

9分野33の施策の柱

生野区外国人住民意識・実態調査 ～くらしとまちづくりに関するアンケート～

(1 あなたのことについて)

- 問1 あなたの性別を教えてください
- 問2 あなたの年齢を教えてください
- 問3 あなたの国籍（地域）はどこですか
- 問4 あなたは現在どの地域に住んでいますか
- 問5 あなたはどこで生まれましたか
- 問6 パートナーや子どもを国に残して日本に来ましたか
- 問7 在留資格は何ですか
- 問8 あなたは、どのような名前を使用していますか
- 問9 あなたと一緒に住んでいる人を教えてください
- 問10 あなたが最後に卒業した学校（現在、学校に通っている人はその学校）を教えてください
- 問11 あなたの現在の健康度を教えてください。

(2 ことばについて)

- 問12 あなたは日本語がどれくらいできますか（①聞く、②話す、③読む、④書く）
- 問13 あなたの日本語の勉強についてお聞きします

(3 仕事について)

- 問14 あなたは仕事をしていますか
- 問15 あなたの生活の経済面（お金の状況）はどうですか

(4 教育・子育てについて)

- 問16 あなたは現在、いっしょに住んでいる18歳以下の子どもがいますか
- 問17 教育・子育ての困りごとについて子の年齢に応じて教えてください
- 問18 あなたは、学校や保育施設でPTAや保護者会の役員などの経験はありますか
- 問19 あなたは、教育や子育てにどのような場所があり、どのような人がいるとよいと思いますか
- 問20 あなたは、外国にルーツのある子どもが日本で自信をもって生きていくために何が必要だと思いますか

(5 生活の困りごと・情報について)

- 問21 生活の困りごとでどのようなことがありますか
- 問22 生活全体の困り感を表すとどの数値になりますか
- 問23 生活の困りごとは誰に相談しますか
- 問24 あなたが知っている、もしくは利用したことのある相談窓口を選んでください
- 問25 生活に必要な情報をどのように入手していますか

(6 医療・福祉について)

- 問26 あなたは、今、どのような健康保険（医療保険）に加入していますか
問27 あなたは、今、どのような年金に入っていますか
問28 あなたは、お金の支援などの次の制度を知っていますか、または利用したことがありますか
問29 あなたやあなたの家族が病気になった時に、困ったことはありますか
問30 あなたは介護保険制度を知っていますか
問31 介護に関することなどの相談ができる地域包括支援センターを知っていますか
問32 あなたや家族の高齢化について不安に思うことはありますか

(7 差別について)

- 問33 あなたは、外国ルーツであることを理由に嫌な思いや差別を経験したことがありますか

(8 まちづくりについて)

- 問34 生野区の良いところはどのようなことですか
問35 外国人住民の暮らしについての生野区の課題はどのようなことですか
問36 日ごろの生活の中で日本人住民とどのような関わりをもっていますか
問37 あなたは地域に住んでいる日本人住民と交流したいと思いませんか
問38 町会（自治会）に加入していますか
問39 あなたは、地域活動の役員（町会の役員など）を経験したことがありますか
問40 あなたは、まちづくりについて話し合う機会（行政が開催する会議や地域団体が開催する会議など）に参加したことがありますか
問41 地域生活の中で孤独感を感じることはありますか

(9 防災について)

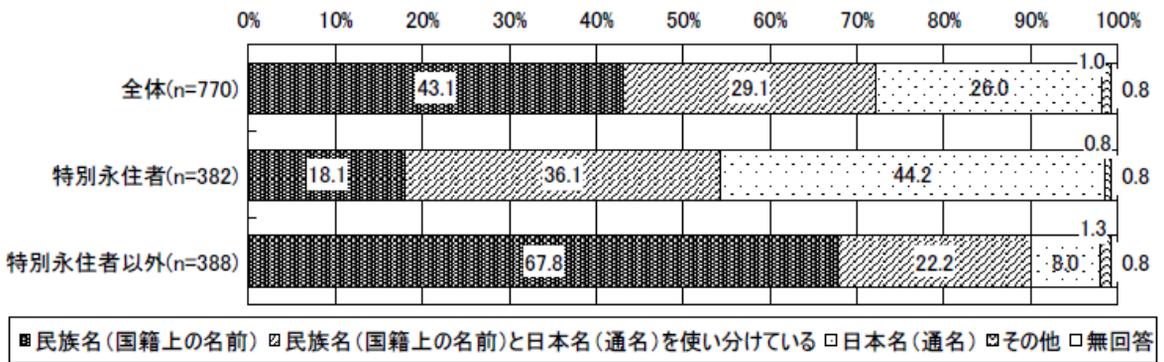
- 問42 あなたは、地域の避難所がどこにあるか知っていますか
問43 あなたは、生野区のハザードマップ（被災想定地域、避難場所、避難経路が示してある地図）を見たことがありますか
問44 防災について知りたいことはどのようなことですか

(10 多文化共生のまちづくりについて)

- 問45 多文化共生のまちづくり（外国ルーツの人たち、多様な人がくらしやすいまちづくり）に必要なと思うことを自由に書いて下さい

A あなたのことについて

量的調査 あなたは、どのような名前を使用していますか



質的調査

▶ 永住者

固有の生きづらさ「使用する名前」「現在の健康度」問題が特別永住者以外との比較により、浮き彫り

▶ 特別永住者以外

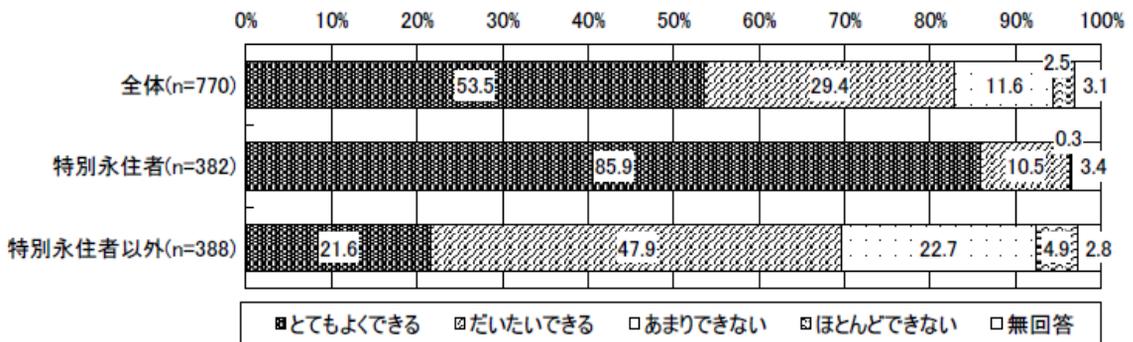
外国人住民について定住化・永住化志向が進む → 理解促進の必要性

施策の柱 1

多文化共生のまちづくりや外国人住民の課題に関する人権研修の拡充

B ことば

量的調査 あなたは日本語がどれくらいできますか (②話す)



質的調査

▶ 永住者 高齢になり、日本語が出てこなくなる

▶ 特別永住者以外

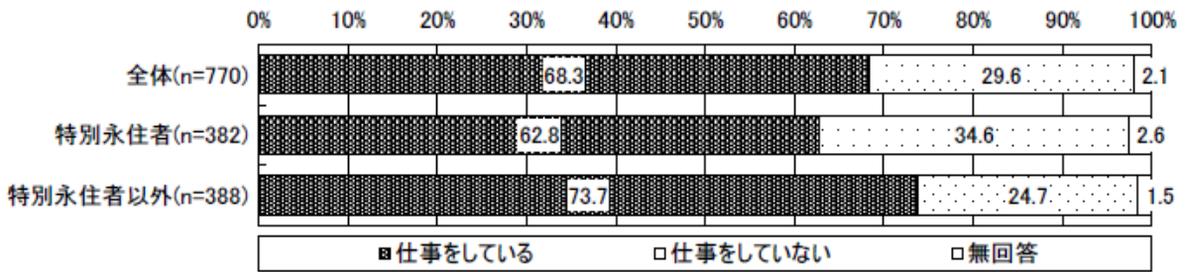
- ・ 来日当初は日本語が全く分からない → 日本語を勉強できるところがほしい
- ・ 家族の中で意思疎通が難しい
→ 日本語ができる子どもなどに母語を覚えてほしい
- ・ 言葉の壁で細かいところが伝わりにくい

施策の柱 4

- 1 日本語教室の開設
- 2 母語教室の開設
- 3 多言語相談窓口の設置
- 4 外国人住民を含めた地域コミュニティづくり

C 仕事

量的調査 あなたは、仕事をしていますか



質的調査

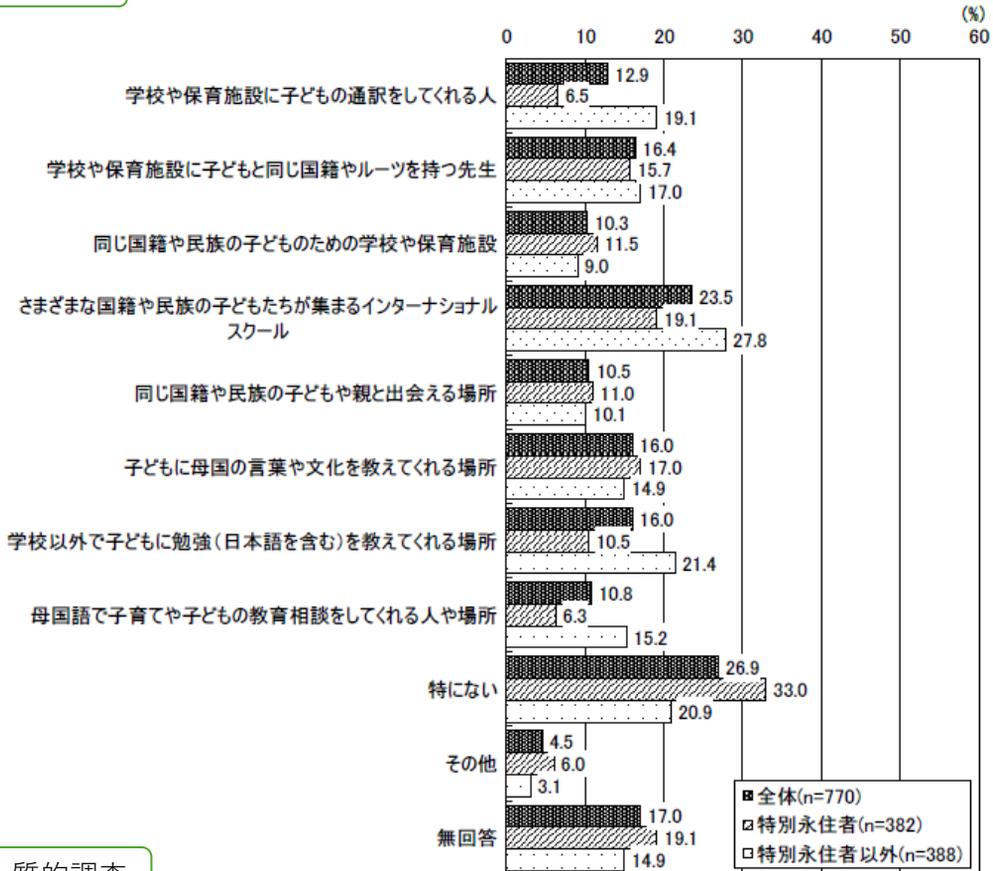
- ▶特別永住者以外
就職サポート・企業サポートをしてくれる団体があればよい
外国人の雇用に興味があるがどうすればよいか（事業者）

施策の柱 3

- 1 外国人就労・求人支援体制の整備
- 2 外国人起業促進支援体制の整備
- 3 規制改革に向けた調査提言の推進

D 教育・子育て

量的調査 教育や子育てにどのような場所があり、人がいるとよいと思いますか



質的調査

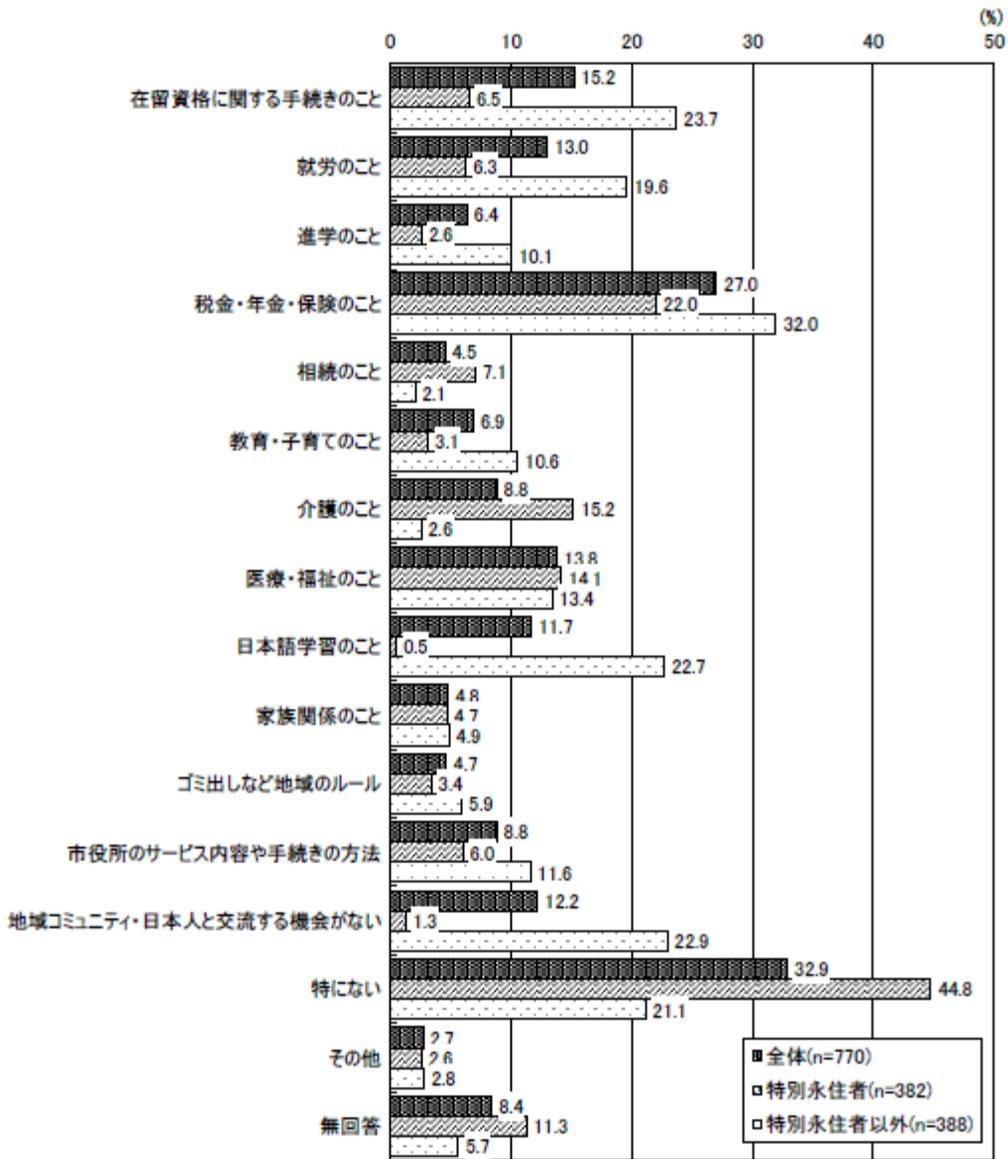
- ▶特別永住者以外 外国につながる児童の増加と日本語指導の課題

施策の柱 6

- 1 経験や可能性を拡げるための場の提供と経済的支援の充実
- 2 日本語指導の質・量の充実
- 3 多様性が反映された子どもが育つ場の整備
- 4 母国語・母国の文化を学ぶ機会を保障
- 5 同じルーツを持つ教員・保育者の配置
- 6 学校や保育施設での通訳の配置の充実

E 生活の困りごと・情報

量的調査 生活の困りごとにどのようなことがありますか



質的調査

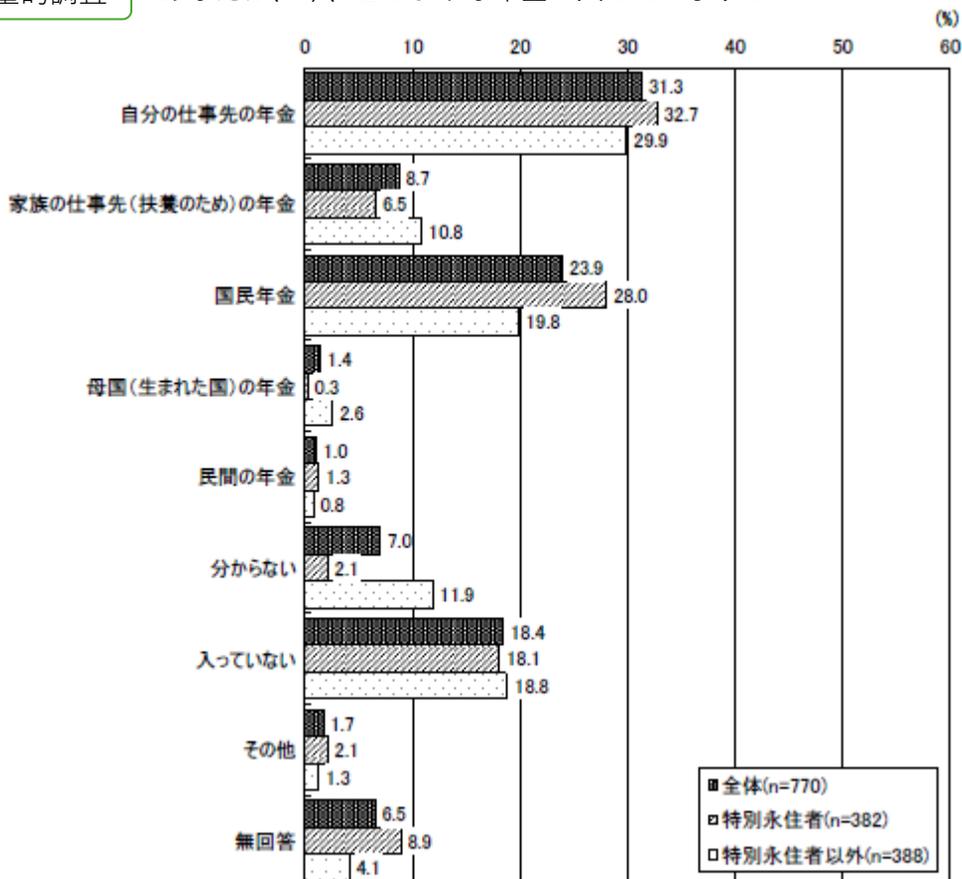
特別永住者は高齢化、特別永住者以外は居住の不安定性が課題
→助けてくれる人・制度の充実

施策の柱 4

- 1 日本語教室の開設
- 2 母語教室の開設
- 3 多言語相談窓口の設置
- 4 外国人住民を含めた地域コミュニティづくり

F 医療・福祉

量的調査 あなたは、今、どのような年金に入っていますか



質的調査

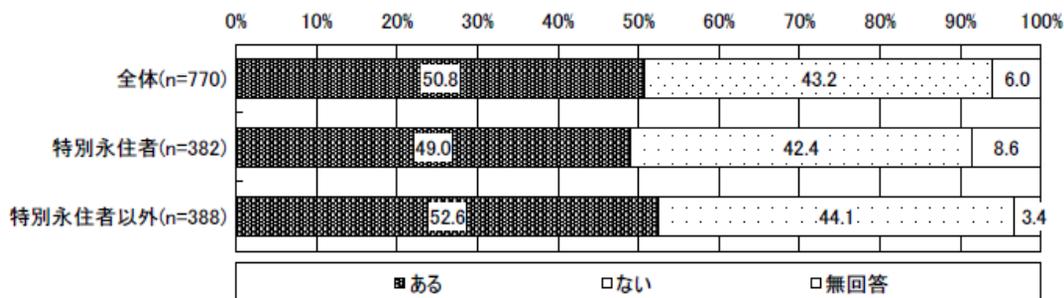
制度の入り口につながる仕組み、実際の利用に関する課題

施策の柱 4

- 1 社会保障制度へのアクセスの保障
- 2 安心して医療にかかれる体制づくり
- 3 安心できる介護体制の整備とケアの充実
- 4 制度や地域コミュニティの外に置かれている人への支援

G 差別

量的調査 あなたは、外国ルーツであることを理由に嫌な思いや差別を経験したことがありますか



質的調査

入居差別や忌避体験（偏見）、ヘイトスピーチなどを見聞きした

施策の柱 4

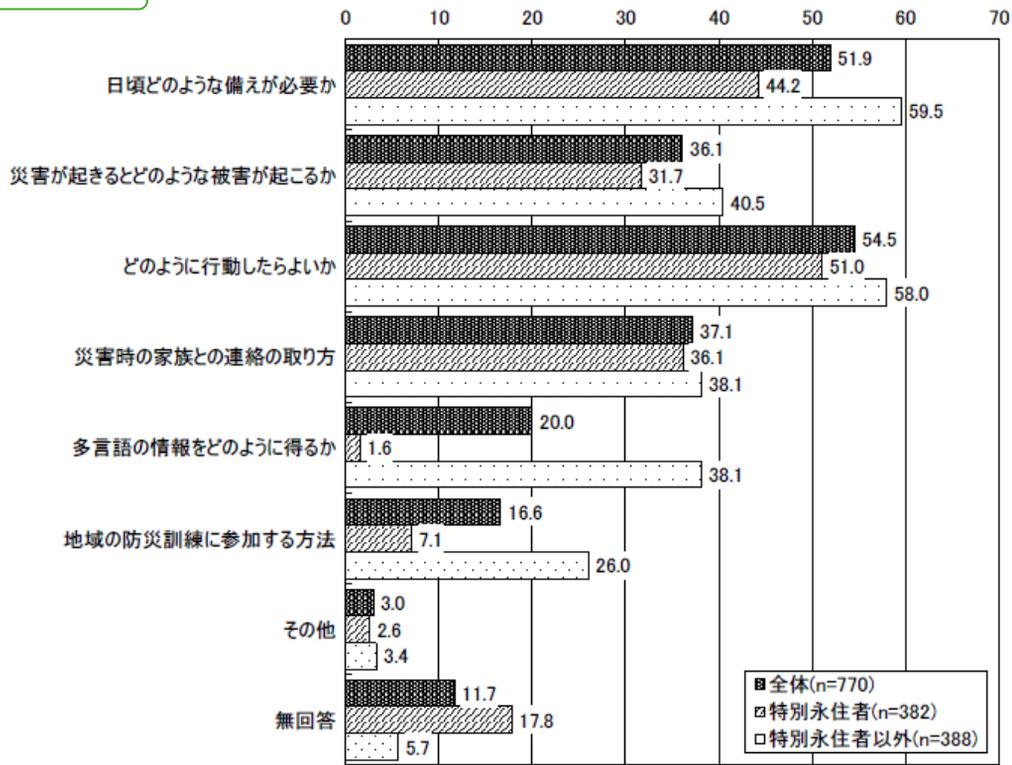
- 1 差別や偏見を克服するための人権教育の充実
- 2 人権尊重のための啓発の充実
- 3 ヘイトスピーチの法的規制
- 4 日本社会における制度的差別の克服

H 防災

量的調査

防災について知りたいことはどのようなことですか

(%)



質的調査

防災組織と外国人住民の交流・情報発信の工夫

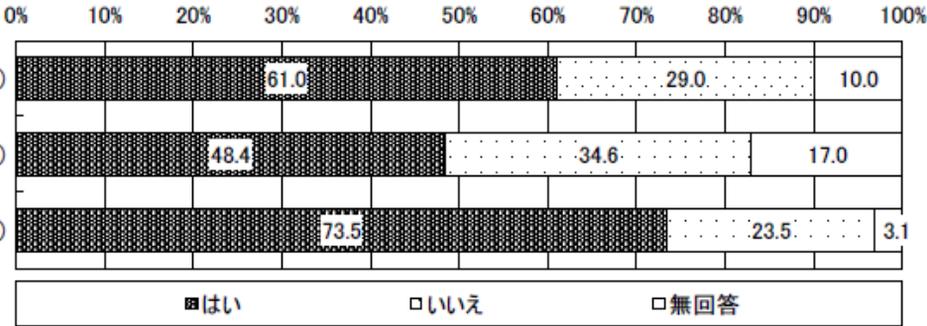
施策の柱 3

- 1 防災情報の発信についての創意工夫ある手法の開発
- 2 防災活動の創意工夫と日本人コミュニティへの研修・啓発
- 3 災害時の外国人住民支援施策の策定

I 多文化共生のまちづくり

量的調査

あなたは地域に住んでいる日本人住民と交流したいと思いますか



質的調査

外国人住民の諸課題への対応は法制度の隙間にあり、これまでの手法・体制だけでは十分な対応できない → 支援活動に取り組む団体等への財政的支援

施策の柱 4

- 1 出会いと交流の機会や場の拡充
- 2 外国人住民の当事者が参加・参画する仕組みの構築
- 3 施策制度の拡充と重層的な連携協力の仕組みの構築
- 4 財政的支援のための仕組みの構築